

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム こもれ陽	評価実施年月日	H.19.11.12
評価実施構成員氏名	本間 昭彦 本間 啓子	川畑 良子 日黒 美知子 日下部 真由美	
記録者氏名	本間 昭彦	記録年月日	H.19.11.12

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	家族のかかわりを大切に、できるだけ市内に住まわれている家族には面会に来ていただいている。家族と一緒に外出したり、一泊旅行に出かけたりしている。また、施設内では基本理念にそって日々穏やかに過ごして頂き、天気の良い日には、畑の作物を見たり、市内、市外へのドライブに心がけている	○	家族の面会も春から秋までは結構いますが、冬になるとやはり少なくなるので、本人が家族と出る機会も、当然少なくなる。この辺を考えたいと考えている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の基本理念をもとに、安らかで、穏やかに生活して頂けるよう努力している。理念は当日出勤の職員で唱和し、考え方を共有するようにしている。	○	楽しく、穏やかで、安らぎのある暮らしの理念を大事にしたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	施設での取り組みを、家族へ施設の便り(こもれ陽だより)として送付している。また、町内へは回覧でまわしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	子供たちが施設の前にあるスロープで遊んでいるのを見かけるが、施設は開設から町内会に入り、今期は、班長になった。回覧を配ったり、会費を集めたりした。今年は隣にある土地を借り、13種類の野菜を植え収穫した。もちろん、地域の方々の協力を得てできた事であった。	○	地域にある保育所との交流を深めたいと考えている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	今年は班長としてお手伝いをした。地域の行事に参加すると共に、施設でも納涼祭を開催し、地域の方々に来て頂き盆踊り等を行った。また、地域の保育園とも交流を持っている。	○	地域にある保育所との交流を深めたいと考えている。
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域包括支援センターを中心とした会議が開かれ、意見を集約し、地域の人々に役立つ情報を提供している。	○	比較的新しい町内、地域なのでお年寄りが少なく、その反面子供たちが多いようであるが、交流を深めたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価することで、日々の実践を確認すると同時に、よりよいサービス提供に向けて日々努力している。また、外部評価で指摘された事項についても改善に向けて、職員一人ひとりが、しっかり受け止め努力している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の割合で開催しているが、その都度、施設内で行われていることを報告し、それについて意見を頂いている。	○	来年も利用者と一緒に畑作物づくりに精を出したい。利用者は見物したり、収穫のお手伝いをして頂いていたが。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	医療連携体制加算について、また、生保について、更には、事故報告等についても伺いを立て、連絡を合っている。更に、わからないこと等について意見を求め、質の向上に取り組んでいる。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	当施設の利用者(重度の認知症)が、甥の方に成年後見人になってもらっているが、後見人になって頂くまでに話し合いをしたり、家裁へ行ったりした。また、職員に対しても権利擁護に関するコピーを渡し勉強会をしている。	○	施設内では勉強会を行っているが、地域での研修会があれば出席させたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当施設では虐待は「0」と思っているが、職員には地域で行われる研修に参加させ、報告して貰っている。そして、虐待について話し合い、確認し合っている。	○	これからも虐待ゼロを目標に努力する。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時は家族等の心情を察し、親切的な説明を行っている。また、話のポイントを纏め、ダラダラと話さないよう心がけている。現在までで、退所者3名で1名は1ヶ月ほどで退所(家族が見られるようになったため)、他の2名は病院で死亡である。	○	入所されている本人も勿論であるが家族との信頼関係を大事にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者から意見を吸い上げるようにしてる。特に、介護員が接することが多いので仕事の中でお話を聞いて管理者に報告している。今のところは通院したとか、部屋の暖房の調整等である。		特になし
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の状態については定期的に家族へ報告している。また、変化があればその都度連絡している。金銭の管理については、家族に出納帳のコピーを送っている。こもれ陽だよりも送っている。	○	忙しさにまぎれて報告が遅くなることもあるので、早めの報告を実践したいと考えている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見等は今のところないが、家族が面会に来たときに、何か意見等がありませんかと聞くこともある。もし意見、不満等があれば、真摯に受け止めたいと思う。	○	今後も家族などからの不満などがあればしっかりと受け止めたいと思う。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に全職員に対して個々に面談し、その中で出る意見、提案を受け入れている。また、月一回行う全体ミーティングにおいても、フリートウキングの機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	どの時間帯でも必要である時は仕事に出られる体制をとっている。	○	急な休みに対しても、即対応出来るようにしている。連携の良さを継続させていきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員のチームワークを大切に、全職員が全体の輪の中に居るようにしている。	○	管理者は輪を大切に、辞める職員が出ないように待遇の改善(大した事は出来ないが)をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内でも会議の折、コピーしたものを職員に渡し読みあわせをしてスタデーしているし、外への研修にも出かけている。介護の技術向上についても、レベルに応じて 1:1 で研修している。	○	今後も外への研修を進めたいと思っている。(費用の許す限り)
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地方のグループホーム職員と交換交流を行っている。一泊の研修とし、それぞれの施設について特色を学び、よいところを持ち帰り仕事の中に取り入れている。	○	今後も他施設との交流を深めたいと思っている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	音楽会と一緒にいたり、ボーリングで汗を流したり、全体で観楓会を実施することでストレスの解消になっているのではと思う。	○	職員にとっても楽しい職場でなければ利用者にも反映されないのでは、その点充分に気配りしていきたい。チームワークが良い職場であると思っている。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員がお互い理解を深めるべく話し合いをし、チームワークづくりに勤めている。また、介護技術の向上に職員が講師となって研修を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談援助の基本をもとに利用者との対話を進めている。困っていることは何か、不安なことは何か等、聞く姿勢を持ち利用者が話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人に面会に来られるとき、あるいは家族会の時などに施設に対して何か要望のようなことがあれば、あるいは、困っていること等があればいってくださいとお話している。	○	家族との信頼関係は良い方だと思っている。家族会を通じて意見交換したり、その内容を全家族に送付している。稚内、留萌、札幌の家族もいますので、全家族が集まるのは大変であるが、にしたいと考えている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>現在までのところ、電話での申し込み、あるいは見学について入所の申し込みが殆どであるが、他の申し込みも多少はある。そのときは、他の施設を紹介する。</p>	○	<p>来年4月からは空きベットを使った、ショートステイが利用可能になるので申請したいと考えている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用者の心理状態を考え、時には入所以前に体験入所として(1泊2日)利用して頂くことがある。</p>	○	<p>利用される方の気持ちを察して、前もって体験入所等をやりたいと考えている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>介護職員がきょうは利用者からこんなことを教えてもらったと言った話を聞くと、利用者とのスキンシップがうまく言っていることが実感として伝わってくる。</p>	○	<p>当施設の理念の一つ、寄り添う介護を基本として支え合う関係を築いていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族との関係を密にすることで、よい関係を構築できると考えている。施設周りの草刈り、畑の草取りを通して関係がよくなって行く</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>誕生会、家族会、その他の行事に家族に来て頂き一緒に食事をしたり、あるいは、面会に来て頂くことで、よい関係ができていくと思う。</p>	○	<p>週に一回以上の方から一ヶ月に1~2回程度の方と様々ではありますが、継続して来ていただくように話し合いをしたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人のもとへ来られる家族以外の人へも、当施設発行の「こもれ陽だより」を送付している。</p>	○	<p>今後も継続していきたいと思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日中はホールで過ごすように心がけ、その中に一人の職員がいると、いう構図を作っている。ときには、もやしのひげとりをしたり、カレンダー作りをして、利用者同士の関係を作り出している。	○	日一日と体力低下していくが、ターミナルケアを大切に、利用者同士の関わりを最後まで続けるよう支援する考えである。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	介護する家族が入院したため、入所となったが、比較的早くに退院となり家庭に戻った。その後、行事には案内を出している。直接訪ねることもある。	○	施設が作っている「こもれ陽だより」等は、常に送っていて、今後も継続していきたいと思っている。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、その人らしい生活ができるよう考え、日々の生活を送ってもらっている。困難な場合は家族と相談をして行っている。	○	個別処遇に心掛け、困難な場合でも可能性を探る努力をしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活暦をすることは、処遇上、大変重要なことと思っているので、多くを知ることになっている。家庭の延長線上にホームがあるという考え方で生活してもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	新聞に入る広告の紙でゴミ入れの箱を作ったり、あるいは編み物、ぬりえ、館内の散歩、ドライブなどを通して、本人の健康状態の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	週2～3回ケースカンファレンスを通して、よいサービスの提供を常日頃考えている。また、家族とは電話でお話するか、面会に来園された時にするようにし、その結果を踏まえて計画を立てている。	○	家族との話し合いは、電話で行う事もあり、より良い介護の計画をと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一応の目安として、3ヶ月を目処に見直しをしているが、本人に変化のない場合はそれ以上のときもある。また、短いときもある。	○	利用者は日々変化する事も多くあるのでその都度見直したことをケアプラン用紙に記帳するようにしたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は日々の介護記録に書かれているが、もし問題があればカンファレンスを通してよい方向に修正する。また、話されたことは、情報として職員全体に周知し、共有する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	画一的な処遇ではなく、その人、個人に合った方法で計画を立て支援することになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事のときには、地域の方や学生のボランティアの協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービス事業者とはいろいろな面で連携をとっている。利用者が他のサービスを利用することは今のところない。	○	今後、その必要性が生じた場合には進んで取り組みたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	具体的に協働するところまではいっていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の訪問看護ステーションから、週2回来てもらっている。また、ドクターもつき2回往診に来ているので特に問題なし。	○	Drの往診、訪問看護と相談しながら健康管理を行っているが、今後も続けていきたいと考えている
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に受診していて、そのドクターから日々の生活についてアドバイスを受けている。薬も処方していただいている。	○	認知症の専門医と連携を取りながら診断、治療を受けているが、今後も継続していく方針である。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師はいないが、協力病院があり、ターミナルケアについても話し合いをし、了解を貰っているし、家族に対してもそのようにお話ししている。	○	継続していく方針である。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、職員がかわるがわるの面会に行き、本人の状態を把握し、病院ワーカーと早い退院を話し合っている。また、家族に対しても働きかけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについては、入所時から家族に対してはお話し、本人の状態が終末期に近づきつつあるときも、確認の意味も含めてお話ししている。	○	ターミナルケアについては運営理念にも謳っている通りであり、共有すると同時にその方向で進めていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看護師は週2回来所するので、各個人に対する医療面での支援の仕方を個別に聞くこととし、本人に対してベストな支援方法を職員全体で共有するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	住み替えの事実なし。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	職員に対しては、接し方の基本を何度となく話しをしている。プライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。	○	今後もプライバシー確保には十分気を配り、各個人の尊厳を守って行きたいと思っている。
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	日々の生活の中で利用者から出る話を尊重し、食事等に反映している。声かけ、話し合いでも、利用者が決定権を持つような言葉かけに気を配っている。	○	元気が良いと、利用者の方から(今日は天気が良いから何処かに連れていって)と声が掛かる。
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	できるだけ利用者の希望を取り入れるようにし、ぬり絵ををしたり、ドライブを楽しんだり、畑の草取りをみっていたり、その日により変わる。食事その人のペースで行い、約1時間かけて食べる人もいる。	○	その人らしい暮らしを大切にしたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	散髪は職員がすることが多いが、パーマをかけたい人はパーマ屋へ行ったりする。化粧をする人、口紅を使う人、髪の毛にムースを使う人様々である。しかし、毎日ではない。本人の思うとおりやっけて頂いている。		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食事の準備(厨房に入って行う)は、車椅子の方が多いため出来ないうが、味付けに協力頂くことがある。食べ物は薄味にしている。食事前後の片付けは出来る範囲でやっけて頂いている。	○	施設での最大の楽しみは食事なので、手作りの料理にしている。冷凍食品や出来合いの物を買ってきて食卓に出すということは殆どない。手を加えた料理を食べてもらいたいので、続けていきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	午前のおやつは少し甘いコーヒーを、午後はその日により違うがお菓子であったり、果物であったりである。 タバコを吸う人はいないが、アルコールは行事のときにコップ一杯ほど飲む人もいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便表を利用しトイレ誘導している。そのことで少しでもオムツ減らしにつながればと考えている。排泄介助については、気持ちのよい排泄に気を配っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は月、木の午後と決めているが、失禁したときなどは、その都度行っている。また、行事等で日がずれることもある。	○	長い間(10日程度)曇り、雨が続いたときなどは良い天気になったとき、利用者の希望で外へ(特に車で)出かけることがある。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後の1時間ほど、ベット、ソファで横になってもらっているが、あくまでも本人の意思を尊重して行っている。 ホールのソファでテレビを見ているうちに、コックリしてしまう方もいる。	○	夜の睡眠は概ね安眠されている。時には日中多く眠り、夜に眠れない方もいます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自分の仕事として行っていることに、テーブルに置く広告紙で作った箱づくりや、毎月のカレンダーづくり、食後のテーブル上の片付け、更には、めだかの餌やり等などやって頂いている。 また、天気のよい日には施設前の駐車場で昼食を摂ったり、3時のおやつを食べたりする。	○	小さな事であるが、これは本人の仕事という感覚で行って頂いている。ゴミを入れるゴミ箱や金魚の餌やり、暦のめぐりなど。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣い程度は自分で持っている方もいる。ショッピングに行ったりするときは、本人にお金を預け好きなものを買うように支援している。	○	全体でショッピングに行ければと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望を叶えることはなかなか難しいが、天気の良い日には市内、近隣の町へドライブに出かけている。 大型スーパーへの買い物を兼ねた、ウインドウショッピングとか、近くのスーパーへ職員と一緒に食材を買いに行くこともある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と共に、温泉へ行かれる方もいる。 「こもれ陽」でも、温泉へ一泊旅行に出かけた。	○	可能な限り外出の機会をを作りたいと考えている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お正月の年賀状を出すくらいで日常的には無い。電話についても掛けて欲しいという希望がある程度である。2ヶ月に1度、あるかないか	○	希望があれば電話や手紙の代筆もしたいと思う。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日時に関係なく訪問されている(朝の早い時間と夜の遅い時間8時以降はご遠慮願っている)。	○	鍵をかけない。自由な時間に来ていただき、好きな時間に帰る。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事実は無い。胸を張っていえることかなと思っている。	○	今後も身体拘束のない施設運営を考えている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜6時以降は玄関の戸は施錠するが、日中帯は鍵を掛けていない。居室には鍵は付けていない。	○	鍵をかけない生活を続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中帯の職員配置は3:1で職員1人はホールに利用者と一緒にいるようにしている。6時から8時までは2名体制。夜8時以降、夜勤者1人となる。それぞれの時間帯で、職員は目配り、気配りをし、転倒のないよう、さらに、変化は無いが、プライバシーに配慮しつつ見守っている。	○	転倒は夜間一人になった時に起きやすい。職員に対して十分注意する様に話している。プライバシーにも心掛けている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミ、編み針等自己管理できる方は自室で使っている。厨房で使う物については、調理が終わり次第、鍵を掛けるようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒は夜間帯に集中するが、巡回は危険性のある方のところを、特に気をつけて回っている。事故防止には職員が一丸となって取り組んでいる。 防災に関しても、年2回の総合避難訓練を行っているが、全体のミ-ティング時に話すこともある。	○	訓練の後は、消防署の職員より講評をもらおうと同時に火災を防ぐための方法などを学んでいる。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の講習については、職員全員が修了している。 年2回の総合避難訓練を実施し、消火器を使う訓練も行っている。	○	人命救助講習は全員が修了している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時には、地域住民の協力を得られるような体制になっている。 春、秋の総合避難訓練を行うことで利用者避難の方法を身につけるようにしている。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入所時には家族に対して話しているが、特に夜の状況で自室で転倒することが十分考えられるのし、その他、偶発的に発生するかもしれない事故についても、十分注意するように全体会議で話している。	○	稚内、札幌、留萌に住んでいる方については、伝達も難しいのであるが、手紙などで連絡したいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々利用者に対して行っているバイタルチェックから本人の体調の変化を察知したり、その他、食欲とか、顔の表情でも分かることがある。そんな場合は、直ぐ訪看へ電話し指示を仰いでいる。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は特に注意して行っている。また、利用者の状態変化で薬が変わる場合があるので、そんな時の伝達は、口頭、引継ぎノートを使い確認している。	○	薬の管理面で不手際があったので、十分に注意してやっていかなければならないと考えている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便チェック表を使っているが、食べ物についても工夫している。便秘の時は乳製品(牛乳)を多く摂取するとか、下痢のときは抑える等、薬での調整もしている。	○	便秘、下痢は体調不良などで起こる事もあるので、体調の管理には気をつけなければならぬと考えている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食ハミガキを行っている。自分で出来ない方は職員がお手伝いしている。また、寝たきりに近い方はブラシの他、ガーゼをぬらして行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	下痢便が続く利用者に対して、訪看、医者の相談を受けながら薬等は調整しているが、職員が知恵を出し合って特性スープをつくっている(油分は少ない)。水分は一人ひとりチェックしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	インフルエンザについては、予防接種しているが、感染症の研修会へ参加したりし、研鑽を積んでいる。 玄関口、厨房入り口には消毒液を備えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>厨房に入るとき、履物を消毒したり、厨房の器具を使う前にはそれぞれアルコール消毒をしている。食器類は洗剤で洗った後、流し湯で洗っている。食材については、安全のため、週2回買い物に行っている。</p>	○	<p>新鮮な食材ということ、週2回の買い物をしている。継続したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関は、入りやすいようにスロープになっている。階段もついている。入り口には季節の花々が植えられ、目を楽しませてくれる。</p>	○	<p>階段、スロープとなっていて利用しやすいようになっている。只、傾斜が少々急なようなので将来に向かって緩やかにする必要があると考えている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関から入った感じが、家庭的でいいなーと感じられる工夫をしているテレビ、ソファ、食堂テーブルの配置、更に、日々の生活スナップ写真、等。また、季節の花などが生けられている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>場所的にはほんの狭い空間しかないが、ちょっと工夫をし場所を設けている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭で使っていた馴染みのものを配置している。持参のテレビ、仏壇、衣装ケース、ベット等々。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>全居室、空気調節のファンが年中回っている(音はないと同じ)。 部屋の温度は、各居室にコンベクターが付いていて、湯が回っていて、温度調節ができるようになっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床はバリアフリーになっているが、廊下、トイレ、浴室にも手すりが付いていて安心して館内を歩いたり、用を足したりすることができる。部屋には洗面化粧台がセットされている。ホールには2台付いている。トイレは3ヶ所用意されている。</p>	<p>○</p> <p>将来に向かっては、入浴後の脱衣室、トイレ2ヶ所の出入り口を広くしたいと考えている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>全個室についている洗面化粧台を見守り、一部介助で利用出来る方は9名中7名で、手洗い、洗面に利用いただいている。また、各部屋の入り口には名前、目印が付いている。</p>	<p>○</p> <p>将来に向かっては、スロープが比較的急なので緩やかにしたいと考えている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>今春から隣接地を借用し、野菜等を13种植えたが、天気のよい日には、皆さんで外へ出て生育を楽しみ、生育を見ながら昼食やら、焼肉を楽しみ、それぞれの収穫を楽しんだ。また、りんご、なしの木があり、10月にみんな収穫を楽しんだ。</p>	<p>○</p> <p>来年以降も継続したいと考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	G.Hを家庭の延長線上にあると位置づけ、できるだけ、家庭に近づけていたことをG.Hでも同じようにできる環境づくりに気を配っている。なじみのものを部屋に置くようにしている。 例、仏壇等
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	日中帯介護員3人が配置され、その内一人はホールにて利用者と一緒に過ごすようにし、気配り、目配りしている。トランプ、ぬり絵、リハビリ体操を行い、余裕のときは職員がカオカリ、カラオケをするときもある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	利用者はホールで過ごすことが多く、何事も強制することなく、自分のペースで行っている。食事時間等は既決め済みのため、朝の遅い人は9時近くに朝食を摂る方もいる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	トランプ(ババ抜き)をすると、みな真剣になり、パパを引くと大きな笑いが上向きする。生活のいろいろな場面で見られる表情をした利用者を見ることが出来る。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	今日は天気もいいのでドライブに行きたいなーと声がかかる。そんな時は1~2時間ドライブに出かけることあり。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	健康面については訪問、往診(PT)があることで安心である。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	どんな場面でも利用者を優先し、柔軟な支援をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	面会時、電話等で家族と話し合いをし、困っていること、不安なこと等があれば聴くようにし、対応している。信頼関係はできていると見ている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ② 施設周囲の草刈、犬田の苗植えから収穫まで手伝いして頂いたり、以前に住んでいた地域の方達が訪ねて来る。
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない ② カラオケサークルとか、行事の時などは子供を含め大勢の方々が集って来て頂いている。
98 職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない ① 職員が輪がっながっていると感じている。家族から話し、訪ねてくる方々の話しなどを総合判断して。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない ① 利用者及び家族から聞く言葉を総合判断して、満足している様子が伺える。日々の生活から表情を見て満足している様子が判断できる。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない ① 家族の面会、行事の時などいろいろな場面で応援して頂くことが多い。そんな時に関く言葉から判断して満足している様子が分かる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- 食事について - 出き合いのものも作るだけでなく、手造りである。又旬のものをなるべく提供している。
- 水筒便の方について - 往診のDr.からいろいろ薬を変えて観ているから良くなっていかたい。職員が工夫して特注スプーンを提供している。今のところ成果は出ていないが期待したい思っている。
- 施設の雰囲気について - 全くはじめに来られる方から、雰囲気がいいと褒められることがある。そんな時、非常に嬉しい。